

## 一第71編一西豪州の人気都市

2000年代の終わりから、大学同士の協定で西豪州パース市にあるカーティン大学(CU)を訪ねる機会を何度か得た。都市圏を含めて人口170万人ほどの天然資源の豊富な西豪州最大の都市で、住みやすいまちとして定評がある。イギリスの経済誌「エコノミスト」の調査部エコノミスト・インテリジェンス・ユニットによる「世界の住みやすい都市ランキング」<sup>\*4</sup> 2011年版によれば、高い物価や水資源の逼迫にも拘わらず第8位で、毎年トップ10を飾る。これは世界の140都市の「住みやすさ」



写真71-1 湖に映るパース中心市街地



写真71-3 教官の住む戸建て住宅地



写真71-2 CU ベントレー・キャンパスの一角

\*1 Perth: 西オーストラリア州の州都。市域人口約150万

\*2 Curtin University: 西オーストラリア州最大規模の総合大学

\*3 Economist Intelligent Unit: エコノミスト誌の調査部

\*4 The Economist's World's Most Livable Cities

を「安定性」「ヘルスケア」「文化と環境」「教育」「インフラ」などを含む30項目について評価し数値化したランキングである。ちなみに、1位バンクーバー、2位メルボルン、7位シドニーに対し、東京は18位であった。

都心に近いCUのベントレーキャンパス(写真71-2)は、これぞ大学キャンパスとも言うべき規模と充実した施設を誇る。主として東南アジアからの留学生も数多く在籍し、どこにいても国際的雰囲気満ちている。また、住まいは集合住宅よりも平屋の大きな戸建が好まれる(写真71-3)。それに見合う庭を持った家は少ないが、プール付が人気である。その結果、郊外に低層の住宅地がどこまでも広がり、人口密度は低い。当然、自動車交通に依存した暮らしが支配的だ。

親しい教授家族とともに、このパースを堪能することができたが、かつて囚人が運ばれ収容した跡が残る海辺のフリーマントル(写真71-4、5)まで足を延ばせば、雄大なインド洋のあなたに沈む夕日を見ながら、海鮮料理に舌鼓を打つことができる。



写真71-4 フリーマントル船着き場



写真71-5 フリーマントル棧橋

\*5 CU Bentley Campus: パース市内のカーティン大学キャンパス

\*6 Fremantle: 1829年にイギリス海軍が着手した植民地